

学校名	名古屋市立名古屋商業高等学校
-----	----------------

平成 28 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

Think Globally, Act Glocally. ～世界ハ我市場ナリ～

職業バカロレアとアクティブラーニングによる

世界を視野に地域で貢献し、ビジネスを創造・構築できる人材の育成

2. 研究の目的

本研究は、世界を視野に地域で貢献し、ビジネスを新たに創造・構築できる人材を育成するため、下記の教育プログラムの開発を行うことを目的とする。

第一の目的は、職業バカロレアの試験手法に対応した授業を導入することにより、分析力、思考力、判断力、表現力のある人材を育成することである。

第二は、アクティブラーニングの学びにより、専門的な知識や技術・技能を活用・応用する力とチャレンジ精神を有する人材を育成することである。

第三は、「ジョブチャレンジ」、すなわち企業等での長期の勤労実習の実施により、確かな職業観・勤労観を持ち、実践力のある人材を育成することである。

第四は、グローバルビジネスに関する実践プログラムの開発により、グローバルな視野でビジネス活動を実践できる人材を育成することである。

第五は、地域貢献プログラムの開発により、地域の課題を考え、地域への貢献に意欲を持ち、行動できる人材を育成することである。

3. 実施期間

契約日から平成 29 年 3 月 15 日まで

4. 当該年度における実施計画

平成 27 年度 S P H 事業によって第 1 年次報告書にあるとおり、さまざまな成果を得ると共に、課題が明確になった。それぞれの課題解決を目的として本年度事業全般を計画している。課題解決の方法や成果については第 2 年次報告書に明記することとする。

(1) S P H 事業全般について

① 研究推進委員会

i) 研究推進委員会の設置

- ・ S P H 事業に関する指導・助言、評価を目的に、『研究推進委員会』を設置する。

ii) S P H 事業計画に関する指導

- ・ 8 月中（予定）に委員会を開催し、事業計画に関する指導・助言を得る機会を設ける。

iii) S P H事業に関する評価

- ・ 2月中（予定）に委員会を開催し、実施した事業に関する評価と次年度の事業計画の指導・助言を得る機会を設ける。

② 校内S P H委員会

i) 校内S P H委員会の設置

- ・ 平成27年度に校内に設置した『校内S P H委員会』において、S P H事業全般の計画・実施を行う。
- ・ 委員会内に記録・広報と財務の担当責任者を置くほか、研究活動については、職業バカロレア（ケースメソッドを含む）、グローバルビジネス（国際交流を含む）、商品開発（エコビジネスを含む）、地域貢献、ジョブチャレンジの大きく5つに分け、それぞれ担当責任者を置き、校長がS P Hの全事業を統括できる体制を整備する。

ii) 部会の設置

- ・ 委員会内に、学習研究部会、事務部会の二つの部会を設ける。
- ・ 教育課程部会は、S P Hの研究を行ううえで必要な教育課程上での計画立案、課題の検討等を行う。
- ・ 学習研究部会は、S P Hでの教材開発・指導法及び評価法の研究、シラバスの変更、学科・コース間の連携調整等を行う。
- ・ 事務部会は、S P Hの予算管理、経理事務等を行う。

(2) S P H研究計画

① 職業バカロレアの試験・評価法を活用した学習指導

i) ねらい

専門性の定着と分析力、思考力、判断力、表現力の育成を図り、ビジネスにおける様々な課題に対応できる応用力のある人材を育成する。

ii) 研究内容

実務における適切な判断力やその判断を導く思考力を養うための課題及び職業実務の設定方法の研究、さらにはそれらの活動に対する評価方法の研究を行う。特徴は次の2点である。

- ・ 職業活動で実際に必要とされる具体的な状況から課題を設定すること
- ・ 回答までのプロセスや根拠について言語で表現することを求めること

iii) 本年度の研究計画

- ・ 近畿大学より講師を招聘し、フランスで実施されている職業バカロレア試験の出題形式・内容及び評価法やフランスでの学習法に関する指導・助言を得る。
- ・ 職業バカロレアの出題形式・内容に関する学習会を設け、効果的な出題形式・内容、評価の在り方に関する研究を進める。特に評価法の研究においては、生徒が自己評価を正確に行い学習意欲の向上に資するよう自己評価表を活用する。
- ・ 商業科会計ビジネスコース2年「財務会計Ⅰ」・3年「財務会計Ⅱ」及び情報処理科2年の「プログラミング」において、職業バカロレアの試験手法に対応した授業を実施し、専門性の定着と分析力・思考力・判断力・表現力の育成を図るうえで、効果的な授業の展開法や教材、カリキュラムでの位置付け並びに評価法に関する研究を行う。
- ・ 1年「簿記」において、1年全学級で、職業バカロレアの試験手法に対応した授業を実施する。複数の教科担任による評価の在り方、職業バカロレアの試験手法を導入した学習の実施時期・内容について研究を行う。
- ・ 次年度以降に1年「情報処理」で実施するために、予備的な研究を行う。
- ・ 1年「簿記」2年「プログラミング」における学習指導法及び評価法・評価規準の研究においては、その成果を成果物として報告する。

iv) 学習内容

生徒を仮に職業に就いた状況下に置く。そこで具体的な業務をさせると共にいくつかの資料を与え、職業上の課題を設定し回答を導かせる。

<例示>

- ・会計担当者として、複数の資料をもとに業務活動に取り組ませる。
取引の記帳と帳簿の締め切り
損益計算書・貸借対照表等の決算書類の作成
損益の分析
- ・作成した決算書類をもとに、企業を存続させるべきかどうかについて根拠を明示して説明させる。

課題の設定にあたっては、商業の専門的な知識・技術を活用することが必要な内容を含むことを要件とする。

v) 対象学年・学科（コース）・科目等

- ・1年 「簿記」（全学級）、「情報処理」（一部学級）
- ・2年 商業科会計ビジネスコース 「財務会計Ⅰ」
情報処理科 「プログラミング」
- ・3年 商業科会計ビジネスコース 「財務会計Ⅱ」

vi) 協力機関

- ・近畿大学教職教育部：職業バカロレアの試験手法を導入した学習の指導法・教材開発・評価等に対する指導・助言

② 商品開発に関するアクティブラーニング

i) ねらい

商品開発の学習の中に、アクティブラーニングの学習形態を取り入れることで、商業教育で培った専門性を活用・応用する力、コミュニケーション能力、創造力、発想力を生徒に身に付けさせる。それらの力を基盤としてグループにより消費者のニーズに合った商品開発を目指し、他者と協働するために必要な協調性や行動力を養う。また、これら一連の学習を通して、自発的、積極的にビジネスを創造・構築できる人材を育成する。

ii) 研究内容

消費者のニーズや地域の特性を考察し、新たな商品を開発・流通させる一連のアクティブラーニングの効果的な指導法・評価法及び学習計画の位置付けに関して研究を行う。また、複数の学科・コースの生徒による協働作業の在り方や、企業・大学・関係団体等との連携に関する研究も行う。

iii) 本年度の研究計画

商品開発の学習での研究は、「和菓子の商品開発」と「紙布による商品開発」をテーマに実施する。

【和菓子の商品開発】

- ・3年商業科選択科目「商品開発」において、和菓子の商品開発に関するアクティブラーニングを実施する。なお、下記の学習内容エ)のうち商談会参加の学習とオ)の学習については、学校休業日での活動となることから、授業受講者の代表生徒による「ビジネスクラブ」の活動として実施する予定である。
- ・専門性を活用・応用する力、異世代間のコミュニケーション能力、創造力、発想力を育成するための、商業科目「商品開発」におけるアクティブラーニングの在り方アクティブラーニング効果的な実施時期、実施テーマ、学習内容、指導法に関して研究を行う。
- ・アクティブラーニングの評価法・評価規準に関して研究を行う。
- ・学習内容ア)、エ)及びオ)の学習において、情報処理科・商業科オフィスビジネスコースの生徒との連携の在り方について研究を行う。

【紙布による商品開発】

- ・この研究では、商品コンセプトの創造、価格設定と品質・デザイン、製造過程等の企業での実務的な課題に関する学習テーマの設定、学習形態、指導法、教材について研究を行う。また、この学習を効果的に進めるため、企業との連携の在り方についても研究する。
- ・この学習では、校外での学習が多くなることが予想されるため、「ビジネスクラブ」での活動により研究を行うものとする。

iv) 学習内容

商品開発に必要な市場調査、商品コンセプトの立案、企画書の作成、商品の仕様と詳細設計、試作品の作成・評価、開発商品のテスト、事業計画の立案等の学習を行う。なお、この学習はアクティブラーニングの一つとして実施するものであり、学習に当たっては、以下の学習に配慮するとともに、下記のイ) 及びカ) の学習においてはプレゼンテーションソフト並びにプロジェクトを活用して発表する機会を設ける。

ア) 資料・データの収集及び分析

イ) グループディスカッション、ブレインストーミング

ウ) 商品の仕様・詳細設計、試作品の作成、商品の製造等の事項に関する協力機関との交渉、聞き取り

エ) 販路開拓と販売促進

オ) 販売実習

カ) まとめ（報告書）の作成・発表

また、この学習では他の学科・コースとの協働がテーマであるので、実習にあたっては、商業科オフィスビジネスコース・情報処理科の生徒へ、市場調査の統計処理、開発商品のイメージ図・模型の作成、商品広告等の業務を委託する予定である。

v) 対象学年・学科（コース）・科目等

- ・3年 商業科 「商品開発」履修者
- ・3年 情報処理科「課題研究」
- ・2年 商業科オフィスビジネスコース 「アプリケーション実習」

vi) 協力機関

- ・SALLY LABEL株式会社：商品開発の指導、試作品の製造及び商品の生産
- ・御菓子司不老園：商品開発の指導、試作品の製造、商品の生産
- ・美濃竹紙工房：紙布製造の実習指導、商品開発の指導
- ・有松絞会館：商品の製造委託商店・販売実習の場所等の斡旋
- ・まり木綿：商品開発の指導、試作品の製造、商品の生産
- ・いちい信用金庫：商品開発の指導、販売実習・商談会の機会の斡旋
- ・名古屋文理大学：商品開発・広報等の指導

③ 地域への貢献に関するアクティブラーニング

i) ねらい

商業教育で培った専門性を活用・応用する力、異世代間のコミュニケーション能力、創造力、発想力等を生徒に身に付けさせるとともに、地域の課題を把握し、ビジネスを通して地域に貢献するチャレンジ精神を有し、ビジネスを新たに創造・構築できる人材を育成する。

ii) 研究内容

地域の社会的・経済的な状況等を考え、地域で行動できる人材を育成するため、地域商店街の活性化のためのイベント及び生徒による出張授業の二つのテーマにおいて、学習内容、実施方法、外部機関との連携の在り方、評価法・評価規準に関する研究を実施する。

iii) 本年度の研究計画

テーマ「地域商店街の活性化のためのイベント」に関しては、昨年度「ビジネスクラブ」におい

て実施したが、本年度は商業科目「課題研究」において実施し、商業科目での学習指導と位置付けの研究を行う。また、テーマ「生徒による出張授業」は次年度の実施に向け、予備的な研究を行う。

【地域商店街の活性化のためのイベントに関するアクティブラーニング】

近隣の商店街で開催されるイベントを通して、地域への貢献に関するアクティブラーニングの内容・有り方に関する研究を行う。この研究では、特に授業における愛知工業大学と商店街との連携の在り方、アクティブラーニングの学習内容、実施時期及び評価法・評価規準について検討を進める。

また、イベント開催にあたり、情報処理科の課題研究「CG作品制作班」との連携についても研究を行う。

【生徒による出張授業】

次年度の実施に向け、本年度は、小中学校での状況調査、引き受け校の選定、生徒による出張授業のテーマ設定、実施時期・時間等に関して予備的な研究を行う。

iv) 学習内容

地域貢献に関するアクティブラーニングとして、地域商店街の活性化のためのイベント及び生徒による出張授業を以下の内容として実施する。

【地域商店街の活性化のためのイベントに関するアクティブラーニング】

学校の近隣にある商店街で開催されるイベントの企画への参加と当日の運営の実習を通して、地域の振興について考える学習を行う。なお、この学習はアクティブラーニングの一つとして実施するものであり、学習に当たっては、以下の学習に配慮するとともに、下記のイ)、エ)及びキ)の学習においてはプレゼンテーションソフト、タブレット端末並びにプロジェクトを活用して発表する機会を設ける。

ア) 資料・データの収集及び商店街の現状分析

イ) グループディスカッション、ブレインストーミング、ケースメソッド、知識構成型ジグソー法等の学習法によるイベント内容の研究

ウ) 取扱商品・イベント内容、店舗・イベント会場のレイアウト等の事項に関する協力機関との交渉、聞き取り

エ) 商店街振興にとって適切なイベントの提案

オ) イベント実施に必要な手順・準備・運営、予算の検討

カ) イベント実習

キ) 会計決算、イベント後の商店街の状況分析を含むまとめ(報告書)の作成・発表

また、実習にあたって、情報処理科の生徒で構成されている他のグループに、イベント用チラシ・ポスター・案内板の作成、イベントのWeb広告の作成等の業務を委託する。

【生徒による出張授業に関するアクティブラーニング】

生徒が学んだ専門的な知識、技術・技能を、生徒が設定したテーマに沿って、小中学校において、講習・講演を実施する。

テーマの例) PCで作成する年賀状

簡単だ! データからグラフを作成

気を付けようネットに潜む罠

楽しもう国際交流! 若者の世界

v) 対象学年・学科(コース)・科目等

・3年 情報処理科 「課題研究」

vi) 協力機関

・愛知工業大学: イベントの企画・運営に関する指導

・自由ヶ丘商店街: イベント会場の提供

④ 国際交流に関するアクティブラーニング

i) ねらい

日本や名古屋の文化・伝統を理解させるとともに、外国語で表現することを通して、創造力・発想力、英語及び中国語によるコミュニケーション能力、異文化を理解する心を育み、グローバルな視野でビジネス活動を実践できる人材を育成する。

ii) 研究内容

日本や名古屋の文化・伝統を理解し、異文化を理解する心を育むとともに、外国語により表現する力、外国人とのコミュニケーション能力を育てるために必要な国際交流の在り方、形態、学習法及び評価法・評価規準に関して研究する。

iii) 本年度の研究計画

国際交流に関しては、国際経済科「国際交流実習」及び「総合実践」での各プログラムの位置付けと学習内容、指導法、評価法・評価規準について研究を進める。また、日本や名古屋の文化・伝統等の学習に関して、学習内容、実施時期、外部団体との連携の在り方等の研究を行う。

外国人留学生の交流プログラムについては、名古屋の大学に留学している外国人学生との交流の次年度実施に向け予備的な研究を行う。

iv) 学習内容

本年度は、国際交流に関する学習として、以下の三事業を計画している。

【国際テレビ会議システムを活用した交流授業】

生徒個々またはグループにより、日本や名古屋の文化・伝統等の中から一つのテーマを選び、研究し、英語によるプレゼンテーションを行う。

国際テレビ会議システムを活用して、姉妹校を中心に外国の高校と合同授業を行い、日本や名古屋の文化・伝統等について研究した内容を英語で発表するとともに、相手国の文化の発表を聞き質疑応答を行う。

【英語によるプレゼンテーション大会参加】

4月に台湾台中市で開催される「International Conference on International Education for Primary and Second Schools」、8月に日本福祉大学で開催される「World Youth Meeting」、12月に台湾高雄市で開催される「Asian Student Exchange Program」において、姉妹校である高雄高級商業職業学校等の生徒と協働して、英語によるプレゼンテーションを行う。共同研究を行うにあたっては、国際テレビ会議システムやE-mail、タブレット端末を活用する。発表についてはビジネスに関わる視点を重視し国際経済発展に関する内容を取り入れられるよう調整する。さらに、現地では、ワールドバザールでの海外の商品販売を視野に品目や適切な販売方法について調査する。

【外国人留学生との交流プログラム】

少人数（2、3名1組）の生徒が、タブレット端末を活用して、来校した外国人高校生個々に対して日本や名古屋の文化・伝統の説明、本校の学校紹介等を英語で行う。

本年度交流を予定しているのは、以下の2団体である。

- ・チェリーブック工科高等学校の訪日団
- ・高雄市立高雄高級商業職業学校の訪日研修団

v) 対象学年・学科（コース）・科目等

- ・2年 国際経済科 「国際交流実習」
- ・3年 国際経済科 「総合実践」

vi) 協力機関と協力事項

- ・高雄市立高雄高級商業職業学校：国際テレビ会議システムを活用した合同授業及び交流の機会の提供、共同研究を行う生徒の紹介、研究・発表の指導及びリハーサル会場の提供
- ・チェリーブック工科高等学校：国際テレビ会議システムを活用した合同授業及び交流の機会の

提供

・名古屋観光コンベンションビューロー：国際交流に関する指導・助言

⑤ グローバルビジネスに関するアクティブラーニング

i) ねらい

貿易・観光ビジネスを通して、商業教育で培った専門性を活用・応用する力、創造力、発想力を生徒に身に付けさせるとともに、外国の経済や企業・商品に関して理解させ、異文化を理解する心を育成する。また、他の専門的な知識や技術・技能の必要性や国際ビジネスにおけるマナーや商慣習を学習させ、国際的なビジネスを自らの力で構築・創造する人材を育成する。

ii) 研究内容

外国の商慣習の理解、商品の輸出入に関する専門的な知識の理解、国際的なビジネスや外国人向けの観光におけるコミュニケーション能力の育成を図るうえで、国際ビジネスに関する学習の効果的な設定、内容、学習法、評価法・評価規準に関して研究する。

iii) 本年度の研究計画

ビジネスに関する外国語会話（英語・中国語）、ビジネスマナーや実務に関する効果的な学習法、内容、評価法と評価規準等の研究を行う。

観光ビジネスの分野においては、「外国人向けの名古屋の観光案内の作成」と「外国人向けの名古屋観光ツアーのガイド実習」の指導法・学習内容に関する研究を行う。なお、姉妹校である台湾高雄高級商業職業学校との修学旅行時の交流においては、ビジネスの視点を重視しワールドバザールで販売する商品について意見交換する。

東南アジアからの輸入に関する知識を指導するうえで必要な調査・研究のため、マレーシアに教員を派遣し、実地調査を行う。

最終年度に予定している「ワールドバザール」、「台湾でのビジネス実習」、「外国人向け名古屋観光のWeb作成」に関して、実施に向け予備的な研究を行う。

iv) 学習内容

【中国語会話の学習】

台湾でのビジネス実習に必要な最低限の中国語会話に関して学習する。学習にあたっては、協力機関からの講師の招聘と既存の中国語会話ソフトの活用を行う。

【ビジネス英語・グローバルビジネスの実務の学習】

グローバルビジネスで必要とされる英会話、貿易取引に関する実務や外国でのビジネスマナーに関する学習を行う。学習にあたっては、協力機関より講師を招聘し、実務的・実践的な学習を行う。

【東南アジアのビジネスに関する学習】

マレーシアを中心に東南アジアの経済事情、ビジネスに関する慣習、日本との関係等について学習する。学習にあたっては、協力機関より講師を招聘し、実践的な学習を行う。

【外国人向け名古屋観光案内の作成】

名古屋の観光・文化に関して調査・研究し、情報を整理し、外国人向けの名古屋の観光案内のチラシを英語で作成する。

【外国人向け名古屋観光ツアーのガイド実習】

外国人留学生を対象にして、名古屋観光スポットを英語で紹介しながら、ツアーのガイドを行う。

v) 対象学年・学科（コース）・科目等

【中国語会話の学習】

- ・2年 国際経済科 「国際交流実習」
- ・3年 国際経済科 「課題研究」

【ビジネス英語・グローバルビジネスの実務の学習】

- ・ 2年 国際経済科 「ビジネス実務」
- ・ 2年 商業科流通ビジネスコース 「広告と販売促進」
- ・ 3年 商業科流通ビジネスコース 「課題研究」

【東南アジアのビジネスに関する学習】

- ・ 2年 商業科流通ビジネスコース 「広告と販売促進」
- ・ 3年 商業科流通ビジネスコース 「課題研究」

【外国人向け名古屋観光案内の作成、外国人向け名古屋観光ツアーのガイド実習】

- ・ 3年 国際経済科 「総合実践」

vi) 協力機関と協力事項

- ・ 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校：中国語に関する指導、東南アジアの経済事情・言語及びグローバルビジネスに関する指導
- ・ 愛知文教大学：中国語に関する指導
- ・ 愛知大学：台湾に関する政治・経済・文化に関する指導

⑥ ケースメソッド

i) ねらい

生徒の問題解決能力、コミュニケーション能力、情報収集能力、論理的な思考力、グループ内での調整力、健全な批判力を養い、自ら課題を発見し、解決できる人材を育成する。

ii) 研究内容

上記のねらいを効果的に達成するため、課題の内容、設定の仕方、研究中の生徒への指導、発表機会の設定の仕方、評価法・評価規準について研究する。

iii) 本年度の研究計画

本年度は、2年・3年の商業科会計ビジネスコースの商業科目において、学習内容、指導法及び評価法・評価規準、外部機関との連携の在り方に関する研究を行う。

iv) 学習内容

2年では企業財務分析をテーマとし、3年は国際会計をテーマとしたケースメソッドを取り入れた学習を行う。また、この学習は、5人程度で一つのグループをつくり、自ら設定した課題に対して、共同で研究し、プレゼンテーションを行う。なお、プレゼンテーションを行う際には、タブレット端末・ノートPC及びプロジェクタを活用するものとする。

v) 対象学年・学科（コース）・科目等

- ・ 2年 商業科会計ビジネスコース 「財務会計Ⅰ」
- ・ 3年 商業科会計ビジネスコース 「財務会計Ⅱ」

vi) 協力機関と協力事項

- ・ 愛知大学：国際会計基準に関する指導
- ・ 名古屋商科大学：企業財務分析に関する指導

⑦ ジョブチャレンジ

i) ねらい

労働に関して、高校と企業との“Co-operative Education”を実施することにより、生徒の勤労観・職業意識を涵養するとともに、専門性を活かした職業に対する意欲の向上を図り、職務での実践力を有する人材を育成する。

ii) 研究内容

長期間の勤労実習における、学校と企業との連携の在り方、事前・事後指導における学校と企業との指導内容の精選、実習中の企業・学校の指導・監督の在り方の検討、生徒にとってより実践的な勤労実習とするための実習形態の検討等の課題に関する研究を行う。

iii) 本年度の研究計画

本年度は、現在実施している2日間のインターンシップの課題を明確にし、その課題解決の方策

の一方法として長期間のインターンシップ実施を試行的に実施する。有償での意義については、多方面からの検討が必要と考えるので、実施については見合わせる。少人数により2週間程度の長期のインターンシップを実施し、長期の勤労実習の在り方について研究を行う。研究にあたって以下の事項に留意する。

- ・事前・事後指導における学校と企業との指導内容の精選
- ・実習中の企業・学校の指導・監督の在り方

iv) 学習内容

長期の勤労実習の事前学習として、ビジネスマナー、働くことの意義・責任、実習先事業所の研究をテーマとした学習及び実習業務の事前練習を行う。また、事後学習として、勤労実習の体験を報告書にまとめるとともに、パソコンソフトを活用して体験発表を行う。

v) 対象学年・学科(コース)・科目等

- ・2年 全科 「総合的な学習の時間」

vi) 協力機関と協力事項

- ・名古屋税理士会所属の事業所：生徒の受入れ

5. 実施体制

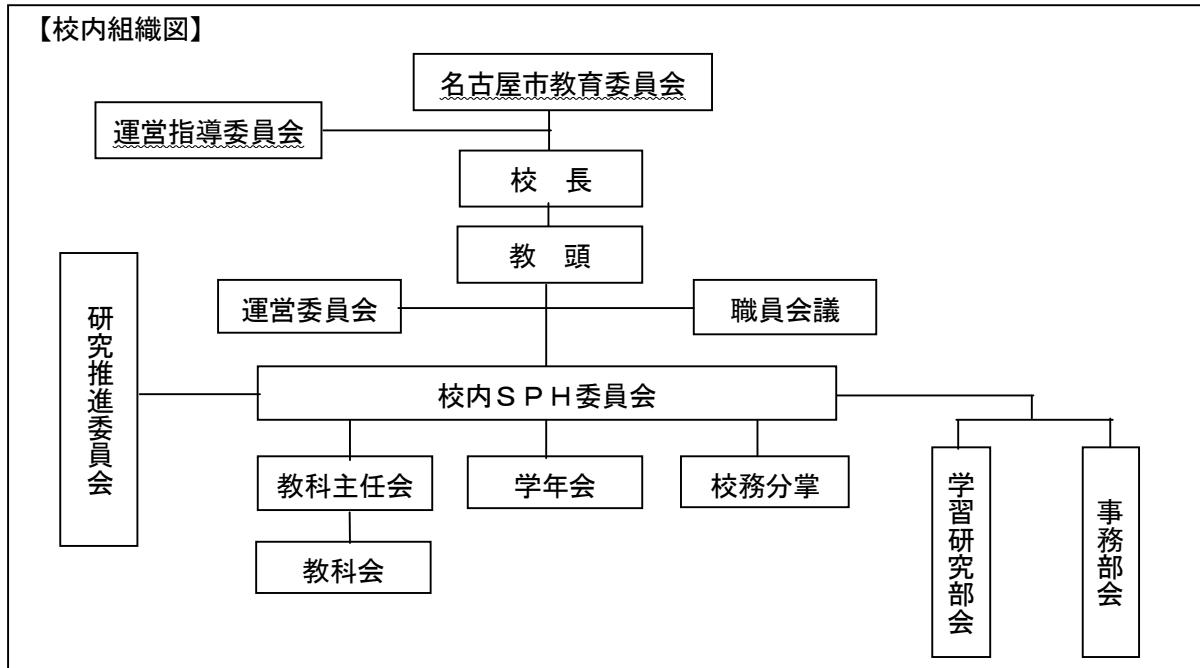
(1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
林 弘 文	校長	統括
荒 尾 一 彦	教 頭	連絡調整
安 藤 孝 司	教 諭	職業バカロレア担当責任者、商業科
赤 川 浩 一	教 諭	グローバルビジネス関係事業、商業科
石 川 昭 一	教 諭	オフィスビジネスコース関係事業、商業科
市 原 住 由	教 諭	職業バカロレア・ケースメソッド、商業科
加 藤 孝 広	教 諭	教育課程、商業科
篠 原 信 輔	教 諭	会計ビジネスコース関係事業、商業科
鈴 木 一 平	教 諭	地域貢献担当責任者、情報処理科関係事業、商業科
津 田 健 一	教 諭	情報処理科関係事業、商業科
中 村 善 昭	教 諭	ジョブチャレンジ担当責任者、商業科
服 部 学	教 諭	記録担当責任者、商業科
藤 井 大 輔	教 諭	グローバルビジネス担当責任者、商業科
松 原 好 秀	教 諭	国際交流事業、商業科
三 浦 朝 生	教 諭	商品開発担当責任者、流通ビジネスコース関係事業、商業科
高 垣 和 大	主 査	財務担当責任者、予算管理・経理事務

(2) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割・専門分野等
伊 藤 清 己	愛知大学 経営学部 教授	事業全般の評価
石 井 成 美	愛知工業大学 経営学部 教授	地域連携、高大連携
細 尾 萌 子	近畿大学 教職教育部 講師	職業バカロレア、指導法・評価
吉 川 博	(公財)名古屋観光コンベンションビューロー 国際グループ課長	国際理解・グローバルビジネス
水 野 浩 行	SALLY LABEL 代表取締役	商品開発、企業連携
前 田 充 紀	税理士(同窓会会長)	事業全般の評価
小 林 恵利香	PTA会長	事業全般の評価
林 弘 文	校長	
荒 尾 一 彦	教頭	
服 部 学	教諭	事業の記録

(3) 校内における体制



6. 研究内容別実施時期

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職業バカロレア		←										→
商品開発	←											→
地域貢献		←										→
国際交流	←											→
グローバルビジネス	←											→
ケースメソッド		←										→
ジョブチャレンジ		←										→

※ 実施時期は、事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
なし				

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

- () 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。
- (○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・~~無~~

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載